

震災を乗り越えた農業の新たな挑戦 ～農業法人 株式会社めぐいと（宮城県東松島市）～

経営体の概要

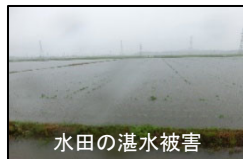
設立年度：平成25年
基幹作物：水稲、ミニトマト、長ねぎ
経営面積：46.9ha
※ 除塩作業等のため6haのみ耕作

現在：令和7年
基幹作物：水稲、大麦、大豆、
ミニトマト、ばれいしょ
経営面積：182.3ha

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【当初】

●前歴事業で造成された基幹的農業水利施設の老朽化により農業用水の安定供給に支障を来しているとともに、近年の降水量の変化に伴う排水量の増加による湛水被害が生じ、効率的な営農に支障が出ている。



水田の湛水被害

【現在】

●国営河南二期事業（H28～R11）により、老朽化した基幹的農業水利施設を改修することで、農業用水を安定供給するとともに、排水量の増加に対応した排水システムの再編により、湛水被害の軽減を図ることで農業生産の維持及び農業経営の安定に貢献している。

営農改善、経営転換等のポイント

①震災復興からスマート農業による持続的農業

震災後の営農再開にあたり、復興交付金によるほ場整備により大区画化や農地の集積を進め、本事業により基幹的農業水利施設を改修し、湛水被害が軽減したことにより効率的な作業が可能となった。地域の担い手として、農地バンク等を通じた農地の集約、乾田直播、スマート農業による省力化を図り、水田畑利用、施設栽培（ミニトマト）により、経営規模を拡大している。



ミニトマトの施設栽培

②ばれいしょ導入による経営安定化の実現

米の需要減少傾向への対策として、3年前に高収益作物の導入を検討し、県からの推奨と機械化が可能なばれいしょを作付け、カルビーポテト(株)と契約栽培。生産実績は、牛糞堆肥の投入による土づくりや二重明渠等の排水対策との相乗効果により成果が実り、県内一の高単収を記録し、令和6年に県知事賞を受けている。



ばれいしょの収穫作業

③クラフトビールと「青い衝撃米」で広がる地域振興

震災後、被災農地を活用し、二条大麦の作付けを開始し、ビール等の原料として出荷。復興支援の一環として地元法人（HOPE）などが製造・販売するクラフトビール等に協力している。また、地域の発展と自社の認知向上を目的に、ササニシキを使用したオリジナル米「青い衝撃米」を直売所を中心に生産・販売している。



オリジナル米(青い衝撃米)

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：宮城県石巻市、東松島市、涌谷町、美里町
受益面積：4,707ha
事業期間：平成28年度～令和11年度
事業目的：揚排水機場の改修及び統廃合、排水システムの再編及び一部施設の耐震化
主要工事：揚水機場改修4箇所、排水機場(改修1箇所、新設2箇所)、用水路改修L=17.4km、排水路改修L=4.8km、水管理施設改修一式

位置図



河南二期地区

<問い合わせ先>

東北農政局
農村振興部農地整備課
競争力強化事業推進担当
電話：022-263-1111
内線（4460, 4201）

（令和7年度調査時点）